

川柳雑誌

八月號

飢餓線上に立つも 我等に川柳あり

(再刊の辭)

昭和十八年十二月號(通卷二三九)で一ト先づ終止符を打つた「川柳雑誌」が新日本の文化建設を目指して再登場するなどとは私自身考えでもなかつたことである。もうこの年で雑誌の編輯でもあるまいと思つてゐたので、これからの餘生を象牙の塔に立籠つて、研究に専念する心算でゐたが、終戦後、日が経つに連れて川柳不朽洞會員は云ふまでもなく、柳友諸君からは非再刊して欲しいと云ふ切な

る望みを聴かされてはそうせうむげにもしりぞけかねて、驚馬に鞭つて、隘路の多い出版事業に、再び携はることにした。一ト度再刊と決意した以上、どんな難關にぶつたらうと、尻古垂れるやうなことはしない積りだ。しかし非營利的な仕事だけに、現實の厳しさはなかく、容易ではな

い。平和を冀求され國民の飢餓を深憂される天皇の下に、進駐軍の朗らかな歌謡曲のラヂオを聴きながら、「川柳雑誌」再刊の辭に筆を執つた。「川柳雑誌」の生みの親は私であるが、育ての親は一つに諸君の手でなければならぬ。頼むぞ諸君!(路)

不朽洞句抄

麻生路郎

坂手島の林員寺にて(三句)

もてなしの一つに島の寺の月
僕一人起きてるやうな鳥の月
漁火ももう見えなくなる程でこそ
高師ノ濱にて
又しても公憤となる程ませうや

ラヂオ又英語で何か云うてはる昔の高きまでも負けてる事を知り將軍の自決電話がなりひびき奥さんの死装束は夢居染み柳秀長時博士を悼むのむ語そのまゝ電話切れらまひアムムーさかまゝ家賃より高し買出しのくせに天皇制を論じ日曜をおつけのうかし育て、居贈物開値で感謝されるなり

白米の辨當へ眼の多いこと
もう貯蓄ないのが新聞投書欄
公職を追はれたい英語塾
らしくない正月自由市場抜け
起つ噂 辭める噂で、松も過ぎ
配給をさへも流して、生さんとす
金さへあればなどと大衆まだ醒す
負たことしきみと知る壕舎の灯
復員の父待つ壕舎裏れなり
軍閥をもう恨まない壕舎なり
遊ぶ子が壕舎を探しあて、くれ
まつ新らの布團壕舎を奪むがらせ
闇市の面子などは遠うに捨て
ギョキと覺えて春を迎へる子

翠光居を訪ふ

この夜も僕が焼いたともてなされ
丹前だ、餅が故郷はよいところ
購買りの多い天皇制を馳き
だがしがしなどと天皇制を維持
打倒され、ばいっ、氣樂な御身分か
AT HOMEを寫眞に血の湧くこと
農家ではお天子様は地に墜あす
天皇制で親子一歩も譲らない
天皇制列らないわで片づける
商用の外に天皇制のこと
天皇制父は沈黙させられる
共和制などと眞似より知らぬなり
銀鉄線へまた一丁はあるならん
あの博士今度は民主主義を賣り
インフレへもう役得も追つかず
Cが不足Mが不足の昨日今日
主婦として闇市の値をそらんじ
汚れた手パンを賣る手に芋置る手
ふるぎとの名十を訪へば菜を繰き
智者學者インフレさんをもて餘し

一萬や二萬長屋の端で食ひ
或る人に

一ブラス一で日本を生かすべし
水車は廻る働く外はなかりけり
地下足袋の群にいつしか父も慣れ
五十圓の肉へ手が出ぬ子 澤山
二食ですいイエ主義では有ません
拾石の一つたらんか立候補
インフレに割切れぬこと日に多し
夕の膳間の値段を、ききながら
泥濘の英語なりけり 墨長以下
ハツタリへ 巡査は顔へ紐をかけ

逐鹿陣營より

志士として花の散るのも知らぬ也
新調で陣中見舞とつけられ
落選へは葉櫻の候となり
十五坪建てたとかガキ来たつきり
このシャツのまゝで逃たと職災者
先生も患者も開襟シャツのまゝ
時の人にまさかシャツでも會はる
シャツよりも肉内よりも米のこと
女店員男のシャツを着て出かけ
供出を知らず 蟻が飛び違ふ
疎開の子 繩の帯するまでに慣れ
この村も非農家の子に寫生され
四天王寺獨立奉告之儀に
招かれて(五・廿二)

けふからは自由の餓のなるところ
買出しと知つてか牛飼房を向け
ラヂオでは今播くものの談なり
輪に描いたやうに田舎へ雨が降り
配給の肥料に刺し 田の廣さ
その老後 粉食の世話 孫の世懸
一ト驛の汽車通學も農家の子
農家の子と代えたかランドセル
百姓の子だが文學博士なり



續川柳講座

(1)

麻生路郎

外語外來語の引用句に就て

川柳の用語として、外語や外來語が比較的自由に引用されて居りますので、その點に就て少しく述べて見やうと思ひます。もと／＼川柳は日常語即ち話言葉で表現される民衆詩ではあります。その内容を強調したり、滑稽味や諷刺の辛辣味を出すためには古句を一瞥いたしましても、

まめ男表冠だしく不埒を
花の留守悠然として風を見
父母教へざれど愚ならず道ふ也
のやうに、特に漢語を引用する例は尠くないのであります。が、しかしここで述べやうとしたしまた漢語を除外し、また主として横文字で表現する國の言葉と解していただきたいのであります。

一つ二つの例を挙げますと
一本の外はどうでもよいテープ
(機舎)

のテープ(TAPE)であります。
都會人エスカレーターでも歩き

のエスカレーター (ESCALATA
(句沙彌))

の

(TOB) であります。前者は英語で、後者は米語であります。が共に殆んど日本語として普通化されて居ります。句の構成上、いろん左束縛をうけな

い川柳では斯うした外來語を早くから引用いたしまして句の内容の適性を圖つて居ります。古句の中に散見する外來語ではホルトルガル語、スペイン語、オランダ語が多いのは足利時代の末期から、徳川時代へかけて渡來した外人の勢力範圍を反映するものであります。明治の末葉から大正時代の句を調べて見ますと外語、外來語の引用の傾向は、まず、助長され昭和時代に入つてからは夥しい數に上つて居ります。そして英語米語が尤も多數を占め、ドイツ語フランス語、ロシア語などの引用された句は稀にしか見當りません。滿洲語、朝鮮語は別として、日支事變勃發以後中華語引用の句が可成殖えたことも見出すことが出来ません。そして戦争が擴大されるにつれて、ビルマ語やタイ語やジャワ、スマトラ用あたりの土語まで註釋つきで引用したものが創作されました。詰り一々日本語に翻譯したのではそ

の内容がピッタリ来ないといふ憾みがあるので、原語をそのまま引用したのであります。これ等の中には全然翻譯不可能なものもあるものであります。たとへ翻譯が可能であっても環境によつてはストゥヴを暖爐と譯さないでストゥヴとしカが適性よりも露語のペーチカが適性でが眞に句を活かす所以だと思ひます。時には外語を外字のまま引用して句意を明瞭にさせようとするたり、新味を感じさせようとするたりして居るのを見うけるのであります。外語、外來語引用が句の構成用語として適不適の論は遠く通り越して、ドシ／＼實用化されて居ります。が、果してどの程度まで外語や外來語を活用したらいいかと云ふことに就ては一應検討を要する問題であらうと思ひます。

した句の多くが、ひとりよがりの句となつて、第三者に理解されなかつたり、説明を聽いて漸く句意が判つても、藝術味が稀薄であつて、直ぐに忘れられてしまふやうな句では折角外語や外來語を借用した意義の徹底を敢て譯でありませぬ。第一は巷間に流布され外語、外來語であること、第二は例令巷間に流布されておなひまでも普通化され易い外語、外來語であること、第三は専門家間で普通化されてゐる外語、外來語の術語であること、第四は特別な固有名詞などの外語、外來語は許されていゝと思ひます。特別な固有名詞の外語、外來語に至つては全く翻譯の餘地がないからであります。そしてそれ等の外語、外來語の表現記號としては主として片假名を用ひて居ります。

では川柳の構成上、どんな外語や外來語が引用されてゐるか、手許の雜誌や句集から少しく拾つて見ませう。
アイヌ(高利貸)、アツツ、アトリエ、アドレス、アメリカ、アンテナ、アカシヤ、パイロン、アドバルン、アデノイド、アロハシヤツ、アスファルト、アコデオシ、アツシスタン
パイ、パス、バケツ、バンド、バナナ、バーム、バンド(帯皮、樂隊)、バラモ、バンド(打球棒)、パイブル、バラツクバルカン、パリックン、パレボール、パスガール、パドリオ、バスケツト、バケツケリ、ピヤホール、ピフテキ、ビーズ、ビール、ビスケツト、ビル、ビラ、ビルマ、ビルディング、ブラウス、ブルジョア、プロツク、プローチ、ブルドツク、ベンチ、ベスボール、ベスト、ベトルヴェン、ベル、ベスト、ベルト、ボタン、ボイス、ボーイ、ボーイング、ボイラー、ボツクス、ボート、ボルト、ボリーナス、ボルサリノ
チツク、チツプ、チョーク、チュリツツ、チャイミチル、チャラメル、チルチルミチル、ダットサン、ダイヤヤ、ダリヤ、ダンス、ダース、ダイビング、デマ、デパート、デリー、デスマスク、デスク、ブ

原則としては純化されたは話言葉の日本語で創作するのが一等いのであります。が、複雑多岐な世相を或は事物を描出するために語彙の豊富さが第一條件であります。時に日本語以外の言葉を借用することも又やむを得ないものであります。しかしそれは何處までも内容を適性化するためのものであります。第三者が容易に理解し得る程度のものでありたいのであります。あまりに専門的な術語を使用

の襦衣の如く、漢字を當て嵌めてシヤツと訓ませたものも多あります。それがために歌留多煙草、合符、喇叭のやうに、古くから使用されて來たものはそれが片假名で表現されてゐないし外來語であることに氣づかれないほど日本化されて居ります。又、ある人達は目に訴へる感觸から特に平假名を用ひてゐる場合もありませぬが、その殆んどは片假名を用ひることになつて居ります。

(路郎)

ン、デツドボール、ドアー、
ドアーエンチン、ドイツ、ド
ンタク、ドラック、ドリアン
エブロン、エナメル、エン
ヂン、エトランゼ、エキスパ
ート、エレベーター、エゴイ
スト、エスカレーター
フオーク、フラツシュ、フ
エミニスト、ワイルム、フエ
ルト

ガイド、ガンヂー、ガラス
ガス、ガスメーター、ガスマ
スク、ガツリン、ギター、グ
レシヤム、グライダー、グリ
ンランタン、グロテスク、グ
ームセツト、グートル、ゴム
ゴリラ、ゴゴリ、ゴースト
ツブ

ハイヤー、ハンカチ、ハー
モニカ、ハンモック、ハンマ
ー、ハイカー、ハイキング、
ハンチング、ハイコート、
ハンドバッグ、ハイヒール、
ヒステリー、ヒューズ、ヒツ
ト、ヒツトラ、ヒリツピン
ヘルメット、ヘアネット、ホ
ーム(停車場の歩廊、家庭)、
ホルモン、ホームシツク、ホ
ームラン

インテリ、イギリス、イタ
リヤ、イブセン、インフレ、
イニシャル、インキ、インボ
イズ、インクライン

ヂャーナリズム、ヂャズバ
ンド、ヂャケツ、ヂュウヂュ
ツ、ヂャバ、ジンジャ、ズボ
ン、ジグザグコース、ジヤン
グル、ジヤンパー

カボチャ、カザツク、カル

ガン、カンニング、カルテ、
カシフル、カルピス、カメラ
カラー、カツフェー、カロリ
ー、カーテン、カレー、カル
モチン、カーネーション、カ
フス、カウチ、カウスター、カ
レンドー、カーヴ、カナリヤ
カチューシャ、キロ、キツス
キヤンプ、キヤツチ、キヤラ
メル、キヤツシュ、キヤツチ
ボール、キング(雑誌)、キリ
スト、キニーネ、キヤビン、
クロール、クローバー、クレ
イン、クローム、クレオン、
クリーム(化粧品)、ケーキ、
ケール、ケース、コンマ、コ
ールター、コンバクト、コ
ース、コンペイト、コンサー
ト、コンサイズ、コーヒ、コ
ツク、コツブ、コンミツシヨ
ン、コスモス、コンクリート
マスカット、マツクアーサ
ー、ママ、マダム、マスト、
マンホール、マस्क、マイナ
ス、マラソン、マント、マス
ゲーム、マイク、マネキン、
マツチ、マドロスパイプ、マ
ーチ、マートク、マライ、マ
リヤ、ミシン、ミス、ミスニ
ツボン、ミルク、ミクロン、
メガホン、メモ、メートル、
メロン、メリヤス、モデル、
モナリザ、モーション、モー
ニング、モラエス

ナイフ、ナフキン、ナフタ
リン、ニグロ、ニユース、ネ
ツト、ネクタイ、ネオンサイ
ー、ネルソン、ノータイ、ノ
ーハツト、ノット、ノツク、

ノーチツブ
オフィス、オヴアー、オル
ガン、オペラバツグ、オード
ブル、オムレツ、オールバミ
ック、オルゴール、オールドミ
ス
パーマネット、パンチ、パ
トロン、パジャマ、パイプ、
パミール、パンク、パン、パ
ラソル、ババ、バーセント、
ビエロ、ビクニツク、ピリオ
ツド、ビアニスト、ビストル
ピンボン、ビンセツト、ビン
ピンク、プロファイル、プロマ
イド、プラス、ブラツト、ブ
ロペラ、プロレタリア、ペー
パーウエツディング、ベンネ
ーム、ベンキ、ベン、ページ
ベツ、ペーチカ、ベタル、ポ
ーズ、ポーチ、ボンブ、ボケ
ツトマネー、ポーランド、ポ
スター、ボツベン、ボンチ、
ボケツト、ポスト
ラムネ、ランドセル、ラン
プ、ライオン、ラヂオ、ラバ
ー、ラツパ、ラツシユアワー
ライカー、ラヂオコント、ラ
イト、ランチ、ラブレター、
ラスト、ランチ(食事)、リヤ
カー、リーダー、リュツクサ
ツク、リレー、ルンペン、ル
ーズベルト、レベル、レコー
ド、レンジ、レース、レント
ガン、ロマンチツク、ロープ
ウエー、ロンドン、ローマ、
ロケ、ロマンズ
サンブル、サンキユー、サ
イレ、サーカス、サーピス
サーベル、サンブル、サイド

グ、スイス、スパイ、スチ
ムハンマ、スチーム、ステツ
キ、ストツブ、スキツチ、ス
ピーカー、スタンダム(電燈臺)
スペシヤルルーム、スプ
レース、スピーチ、ステツセ
ル、スカート、スタフ、スマ
トラ、スクールライフ、スケ
ートリング、スタイルブツク

麻生路郎著

新川柳評釋

定價 一〇・〇〇
送料 〇・五〇

本筋の川柳で一粒選りの名句を蒐め、その一句一
句に、不即不離の評釋がしてある。

戸倉普天著・麻生路郎序

普天隨筆

(非賣品)

川柳人の隨筆の面白さは又別である。この場合の
面白さは滑稽といふ意味ではない。辛辣に近い観
察の鋭さの謂である。著者は且申紡産業の専務。
(實費三〇圓送料七十五錢で頭つ)

戸田孤鐘著・麻生路郎序

川柳二千六百年史

定價 一〇・〇〇
送料 〇・五〇

著者一人の創作・柳史川柳の尖端を行く。
街の雜賢(賣切)大(空(賣切))人の一代(賣切)
累卵の遊び(賣切) 詩人覆眼(賣切)

川柳一雜一誌

「川柳雜誌」の舊號御希望の方は缺本材調べの上、
お問ひ合せ願ひます。定價一部三圓送料三十錢
大阪市住吉區万代西五ノ二五

發售所 川柳雜誌社出版部

スタイル、ストーヴ、スリッパ、ストライキ、スタローリンスキー、ストロイ、ストロー、スコール、セルロイド、セメント、センチ、セーラー(服)、セバード、セル、セツト、ソブラノ、ソロモン、ソフト

タイプライター、タオル、タキシード、タンダス、テン、タイピスト、タンク、タイムレコード、タバコ、タワ、タツブダンス、ターザン、ツンドラ、テスト、テープ、テイルーム、テニスコート、テナ、テキ(料理名)、テンポトツブ、トラクタ、トマト、トンネル、トロツコ、トラツクトラクター

ウエータ、ウキンド、ウオルサム、ウキスキー、ウエーヴ、ワイシヤツ、ワンピースユダヤ

まだ、幾らでもあります、これ位にして、次に、これ等の外語や外来語によつて構成された例句を挙げ簡単な解説を試みることにいたします。

嫁き遅れ、ベル、を下げて又遅れ
(柳秀)
オルガンの様に商標者はおき、
て見 (菓子)
ハ、ハ、ハ、迷へる心バチつか
せ (栗)
君の指アス、バラガスに似て細じ
(路生)
プ、ラツト、フ、ホーム、舞臺に立つた
氣で歩き (舟路)

西(西へ)来たがホームシツク
なり (黄川)
ハ、ハ、ハ、着て寝るよと友は年を
とり (孝三郎)
僞らぬ姿ストロー捨て (飲み)

レ、デ、メ、ド、合はぬところは口
でさせ (虚白)
鴉は、マ、ト、雀は、明ら、か、哀れわ
れ (町二)

マ、ド、リ、ン、今夜も腰(腰)を掛け
(香湖)
右の「嫁き遅れ」の句は穿ち
の句で、想としては別に新し
いとは云へない句であります
が、この句を生かしたものは
外語の「ベル」(LEBEL)を
用ひたところにあります。「レ
ベル」が標準といふ意味であ
るからと云つて此の句を「嫁
き遅れ標準下げて又遅れ」と
したといはれが、句になら
ぬこととはないが、「レベル」の
句と比較して見る時、ウンと
凡化されて句の味がまるで違
つてゐることに氣づかれるで
せう。「レベル」の語を使用す
る点によつて、その娘がイン
ンテリ階級に屬してゐること
がうなづかせられるのであり
ます。金もあり、相當な學校
も出てゐるので、相手は大學
出でなければとか、せめて借
家の二三軒もなければとか、あ
いろんな條件もあつたが、あ
れでもない、これでもないとい
云つてゐるうちに、嫁き遅れ
てしまつたことに氣づき、別

に大學出でなくともいゝわ
「財産などはなくてもいゝわ
りした人であらばいい、しつ
と、レベルを下げれば下げる
ほど、縁遠くなつて本人もあ
せれば親達も焦燥な氣に驅ら
れてゐるさまがよく出てゐる
と思ひます。
次に「オルガンの様に」の
句であります、スケツチの
句として大變面白い句だと思
ひます。オルガンは ORGAN
であります、煙草やハンカ
チやガラスと一緒に殆んど日
本語のやうな感じしかりない
ではありませんか。
「ハンドバツク」の句のハン
ドバツクは HANDBALL であり
ますが、ハンドバツクと云ひ
もし、書きもするので、ハン
ドバツクで作句してゐる人達
もあります。此の句はハンド
バツクを拉して來て女性心理
を巧みに掴んだ句であります
「バチつかせ」で容易に決意
しかねるさまが眼に見えるや
うです。この句の場合、ハン
ドバツクを手提抱としたので
は矢張り句の味が出ません。
右に述べたやうに、オヴアー
をオーヴアーと云つたり、ハ
ンドバツクをハンドバツク、
ブルドッグをブルドツク、ベ
ツトをベツト、ベンチをベン
チ、バラツルをバラツル、バ
スをバス、インクをインキな
どと轉訛した用法が行はれて
ゐることも知つて置く必要が
あります。

「君の指」の句に引用された
アスバラガス (ASPARAGUS)
は西洋うどのことでありませ
が、佳人の細い指を聯想する
のに、西洋うどでは少しも新
味が感じられないのでありま
す。西洋料理でおなじみのア
スバラガスはスキツチなどと
同様に譯した方が反つて板に
つかないほど日本語化してゐ
るのであります。
「プラツトフホーム」の句は
汽車が驛の歩廊に進入つて來
るのを待つてゐるのに、ジツ
と突つ立つてゐられないで、
あちらへ五歩、また廻れ右し
て五歩と絶えず動いてゐる人
を見かけますが、そうした情
景をうまく捕えてあります。プ
ラツトフホーム (PLATFORM)
はこの句の場合、驛の歩廊で
あります。人によつては、た
だプラツトと云ひ、フホーム
ともホームとも云つて居りま
す。句の表現にも同様に取扱
はれて居ります。
「西へ西へ」の句は言語風俗
の違つた異國へ、おっぼり出
された時、忽ちにして思郷病
だとつづかされたことを詠ん
だのであります。西へ西へは
勿論歐洲を指して憧れの旅
をつづけてゐることを表はし
たものであります。さて目的
地へ着いたが、何故は、
とこんなところまで來たので
あらうと思ふと急に物悲しい
情緒に襲はれるのであります
あこがれて來たのではないか

と思ひ返へようとしても言語
や風習の違つた現實は總てに
冷めたく感ぜられ、遂には懐
郷病となるのであります。ホ
ームシツク (HOMESICK) と
云ふ語は元來形容詞でありま
すが、此の句では名詞の用法
となつて居ります。名詞なら
ホームシツクネス (HOMESICK
NESS) である筈だが、日本
ではホームシツクネスとは云
はないで、一般にホームシツ
クと云つてゐるのであり
ます。そこが外来語の外来語
たるところでありませう。第
一、ホームシツクネスとした
ら、この句の場合、句調が整
はないので更に表現を變へな
ければならぬことになりませ
う。「シヤツも着て」の句のシヤ
ツ (SHIRT) はスツカリ日本
化した翻譯の餘地がありません
。襦袢とは違ひありません
が、襦袢とシヤツではそこに
もう區別されて居ります。そ
して襦袢といふ言葉が既に外
來語なのでありますから、シ
ヤツはシヤツとしてそのま
う用ひてそれでよゝのでありま
す。と申しますのは SHIRT
とシム語はもと、ワイシヤ
ツ (WOLLY SHIRT) のこと
その下に着るのは UNDER
SHIRT 又は WEST なの
であります。外語外来語のうちには
斯うした内容まで變つてゐる
ものがあるのであります。之
は兎に角としてこの句など友
情の沁々としたものを感じさ

せられるではありませんか。
 「偽らぬ妻」の句の中の、ストロー (STRAW) の用語は御時世が出て居ります。織物な文化とでも云ひますか、すべてが贅澤で、すべてが裁裁張つて、嬉れしがり屋であります。その心理の表れの一端がこのストローで表徴されてゐるのではありません。しかし此の句はストローでチユ〜吸つてゐるほどの餘蘊を持たない勤勞階級を詠んだのであります。一本の麥藁から斯うした心理を發見するのも實に愉快だと云はねばなりません。「レディメイド」の句は巧みな穿ちの句であります。レディメイド (READYMADE) は既成品のことは違ひありませんが、既成品の語は硬い感じがして殺風景なので、外語でボカシて軟かみをつけたのであります。商人が現金と云はずに、キヤツシユと云つて一種の軟かい響を持たせるのと同じ手法であります。「鴉はスマート」の句は主観句であります。鴉をスマート (SMART) と観、雀を朗らかと感じ、「哀れわれ」と云つて重厚な自分、憂鬱な自己を自嘲した巧みな句であります。「マンドリン」(MANDOLIN) の句は一人者の氣易さがよく出てゐる句であります。初夏の頃になると青白い月を浴びて、窓に腰をかけた青年のハ一モニカを吹いたり、マンドリンを掻き鳴らしたりしてゐる情景に接します。前述の外に、句の構成上、暫くはレールの上のバスとなり (鳥獣) キヤンプ、もうライスカレーに飽いてゐる (比呂志) のやうに、一句中に二語以上の外語や外來語を引用してゐるものもありますが、ごゝに例示したレールだの、バスだのキヤンプだのライスカレーの如きはコツブやタバコ式日本化による日常語になりきつてゐるので特に外語や外來語の引用によつて、句の内容を適性化させるとか、強調することかの意味にのみ解することは當らないのではないかと思ふものであります。同じ外來語でも、オムニバスをバス、ヒステリーをヒスビルディングをビルと省略したり、モダンガールをモガ、モダンボーイをモボ、ステール・ファイバーをス・フ、更に省略してスフと云つたやうに、省略したものも多數に行はれて居ります。

死にますともヒス、第一巻の終りなり (生々庵) 次ぎに、外語や外來語と、日本語の合成によつて句語の豊富さ、内容の適性化を圖つたものも相當數に上つてゐることを指摘しておきます。例へば

牛、ズボン、靴子洗へ来て歸み (雀郎) 圓タタにちらりと見た角かくし (湘里) 首巻が一の字をひくスキー場 (水府) 月末にだけ使はれる赤インキ (安氣良) 生、ビール、胃袋へ今届きけり (灯竿) バス、煙の嘘空いたのがすぎま (春里) 借りのある人とは見えぬペロア (柳秀) やうな句の半ズボン、圓タタスキー場、赤インキ、生ビール、バス嬢、ペロア帽がそれでありませぬ。手近な川柳雑誌から斯うした合成語を拾つて見ますと、

消ゴム、金メタル、ペロア帽、濡れタオル、女中タイプ十六ミリ、スキー服、スキー靴、貸ボート、ニュース映畫ラツパ吞み、ゲーム取、バス嬢、安カフエー、食パン、ミシン臺、雨ゴート、大ジョツキ、生ビール、ネオン燈、朝日ビル、セルル、ネオン、花カルタ、豆ランブ、カフス釦、ゴム草履、ゴム底、コツブ酒、逆コース、ソリダ水、ゴルフ場、ゴム球、バン屋、ビール函、バナナ屋、ビル街ラツセル車、節約デー、ベビーカー、おヒス、タイプ科、アル中

ア、ルミ質、マンダリン、メリケン粉、デング熱、半ドン、ソシ、ドラム罐、軍艦マーチ、再生コート、阪神パーク等々幾らでもあります。以上の外に、意味深な一言AもBCも (一浪) イニシャルだけのまじりP.O.B (路耶) 十二月GO・STOPが邪言になり (正路) Down's 図書館へ来て物足らず (風來子) のやうに、原語そのまゝを挿入した句もあります。これ等の實例に見ましても川柳が表現上如何に自由であるかを知ることが出来ますが、あまりに無軌道ぶりを發揮するところに決つていゝ實を結びそらな答がないのでありますから、外語や外來語の引用については特に留意して、よりよき川柳への發展を期したいものであります。 (路耶)

近畿日本鐵道株式會社

笑ひの復興運動 (豫告稿)

笑ひを忘れた國民の顔をサツと見てみると、何んだか淋びしくなつて来る。曾ては若駄難いことにもケラ〜笑つたものであるが、戦時中の猶鬱が利き過ぎたのと、口をきいても腹が空くといふ現實に直面したとて、相變らず笑はない。イヤ笑へないのかも知れないが、この儘捨て置いてたら、人間の影を見てゐるやうな國民になつてしまつたらう。

そこで私はお互ひに、大きく口を開いて笑ふ運動を近くおこすことにしたいと思つてゐる。無理に笑ふことは寛弛してゐるかも知れぬが、柔道でも型から進入つて眞技を發揮するところまで行くことを思ふと、求めて笑つてゐるうちにハントに笑へるやうになるに違ひない。人間の心の底には必ず笑ひの水が満々と湛えられてゐるに違ひないから、私は地面へ穴をあけて井戸水をポンプで吸ひ上げやうに國民を笑の世界へ誘導する役目をつとめやうと思つてゐる。

川柳塔 路郎選

兵庫縣 戸倉 普天

紅しようがだけの配給どすかいな
 参政権 女は落の方 がよし
 鎌さした儘で役場へ投票に行き
 社をやめて歸れば候補に立てと言ふ

世相

弟の門出に鯉を釣りに行き

田雲市 尼 緑之助

年頭の詔書大御心を拜すだに
 自奮自動まことに我ら民として
 きようだはいい正月のもちのゆげ
 食はぬ人もあらんに雑煮湯氣を立て

失業の國民服は着てゐるが
 奈良縣 尾崎 方正

開市があるぢやないかは持つてゐる

何を云ふ 君は戦争傍觀者
 神憑りの夢の祖國へ左様なら
 爆撃だ終戦だ淀川の流れ觀る
 民主主義診断學に異狀なし
 願る 自己は淋しく月圓し

尼崎市 奥村 丹路

閣屋にもなれず百姓にもなれず
 秋やよし 燒都のなかに咲く戀か
 敗戦の匂ひ地下鐵下りてゆく
 美しいキモノの國はどこへいた
 こんばんも子にしゃべらされ子と眠り
 雛の家作るにたのし小半日
 成行にまかせと悪いくせが出る
 焼かせんでしたと濟まぬやうに云ふ
 敗れたり 英語はすでに忘れ果て

奈良市 井村 寒浪

混浴に夢の昔がふと浮び
 DDTもうすみましたといふ頭
 久松と云ふ柄でなく藏に住み
 千圓の三三九度も芽出度けれ

民主主義先づアタマからアタマから
 思ひ新去年の今日の地獄圖繪
 門はかけたがくどり締め忘れ

新開漸増

大阪府 水谷 竹莊

やけ酒の氣持女にわかるまい

物價高田舎へ手紙出して見る
 手巻とは言はずコ罗纳の箱で吸ひ
 東條に巢鴨の春は淋みしかろ
 落ちぶれてしまへば犬も尾をふらす
 壁のない家から燃えるやうに着て
 ラケットに娘は春の音を聞き
 青空へ家なきものゝ身を思ふ
 舞妓もうダンス草履で出る祇園
 手に残る草の匂ひに故郷思ふ
 戦争が済めばテックだボマードだ

大阪府 丸尾 潮花

熱い茶の茶漬がいつち好きな母
 道樂を少し許してくれた母
 母親の情小荷物どんと着き
 母の眼を最初に覺ます歸省の夜
 還る子を門で迎へた母の杖
 死にたくはない母を死なした師走の灯

母を憶ふ

岡山縣 濱田 久米雄

生れ出る子へ純綿を寄せ集め
 初産へいよいよこと一通り

大分縣 田淵あをやぎ

開店の英語へ誤字が一つあり
 資材難ちまたに鐵はさびつれど
 子を抱いて一句出さうな月へ立ち
 故郷の月
 缺配はまた母ちやんをぬがすなり
 春がすみあの娘のうちはあの邊り
 入試の日に
 親と子のこれも入試と云ふ委

奈良縣 上田 翠光

同舟近詠

愛媛縣 前田 五健

胃袋につながらる大事總選舉
 ジープ颯爽こゝの土産の人形ゆれ
 過去の夢サラリ忘れて繪具皿
 あきらめた同志の笑ひ戦災者
 その話何所も同じ食べる事

金澤市 安川 久留美

スフ入ののれんをくぐる申園子
 うどん屑これで満足仕る
 干場から見ても世間はうそ寒い
 定紋の墓を異人はいぶかしく
 運命？呑み友達とでつくわした
 つまましい農婦は泥のなきを賣り
 一ト切レの芋をまけても圓單位
 定紋に執着のない終戦後

大阪府 橋本 綠雨

立食ひの十圓也の肉うどん
 十圓が單位で欲しいものばかり
 開店のピラパツクと書いてなし
 鯛とは云へぬ値段で數をよみ
 北風に賣るものもなし金もなし
 炭坑に行けば五合くれるそう

近作柳樽

丸腰に素手に罪滅しの鍬 鳥取縣悟志
 天日をチカ九重の雲霽れて
 投票へお前はお前俺は俺
 御時世は御用學者を唾にする
 親しさは至尊を人として仰ぐ
 もう要らぬものに共榮園の軸
 有り餘る金を隠すに物と換へ

金融異變風

十圓になる迄無駄も買ひ添へる
 食ふものゝほかは家計も封鎖令
 非常措置あんな老婆にあんな金
 藏書では米に代らぬ妻の愚痴
 インフレへ豫算が立ぬ支出の部
 遠慮する子に飯櫃の底が見え
 燈の下の腹痛で泣く子河馬に似る
 らく書に先住の子の智を想ふ
 足を縮めて眠る幸だけ

★社の回覧板

日本川柳人楽部が
 生れました(御参
 加をおすゝめしま
 す)

川柳人相互の親睦と新
 日本文化に貢献するた
 めに、日本川柳人倶楽部が産れま
 した。川柳に興味のある方で、本
 倶楽部の事業協力に熱意のある方

川柳雑誌社サービス部の
 御利用を
 川柳雑誌社にサービス部が出来ま

川柳不朽洞會の會員で戦禍のため
 に本會との連絡の絶えてゐる方は
 至急住所をお知らせ下さい。

脱み返しただけの争闘
 千萬の松葉光つて冬の月
 ふた親の言葉が信じられぬとし
 米子市月都

道とへば嫁にもほしい教えやう
 たゝすめば此所が昔の家だつた
 電燈を差し上げ履かす暮し向き
 今この世にわすらつたのが不倖せ
 大阪鼓扇

バラツクに離れの出来る大世帯
 獨逸語だ支那語だ役に立ち遅れ
 吊皮へさがつて花をもてあまし
 三年もすればと母は柄をほめ
 大阪鳩花

故郷はつゝじの花で暮れかゝり
 藤づるの模様か姉によく似合ひ
 落ぶれて 英語會話の本を買ひ
 俳優になつて見たいと思はず日
 同 同 同 同

おみそ汁ぬくめなさいと置手紙
 初講義たゞ参考書の名だけ聞き
 同 同 同 同

兵庫縣 蛤太郎
 大 阪 葉 光
 キモノ着てお葬でもあるのかい
 同 同 同 同

休み緑へ雨もよし 東京都了 洋
 たまさかの 同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同



P★P

▼終戦後の日本では名簿の貧困さ
 が、アレコレの手運びを生じ
 た。「川柳雑誌」の再起にも、これ
 が大きな痛となつたことは争はれ
 ない。消息欄なども幾人かの手
 幾度か書換えられ、人手の無駄、
 時間の無駄を根拠よく繰返へして
 今日に及んだ。勿論それだけが再
 起遅延の原因ではない。印刷所の
 問題、印刷紙の問題等々、数へ
 挙げると際限がない。川柳人から
 は、まだかゝの欠の催促である
 一々返事をし出してゐたが、それを
 續けてゐては通信事務で日が暮れ
 てしまふので兎に角雑誌の顔を見
 せることにした。

▼昭和十八年十二月號限りで終刊
 とした本誌も、社はそのまゝ、存置
 し、句會は空欄下も續けて来た。
 いかに集りが悪くなつても川柳の
 火を絶やさぬために最後まで頑張
 った。殊に内容の低下せぬやう指
 導には全力を傾倒した。そして我
 々が社では御用川柳やモトローのや
 うな川柳は作らぬやうに絶えず厳
 戒した甲斐あつてウライタイムに
 も可成り優れた句を残すことが出
 来た。そのためには特高課へ呼び
 出されてお小言を頂戴したり、一
 旦發送した雑誌を返還して貰つた
 り、難行苦行をさせられたものだ
 それに、大阪文化協會の世話役か

ら衆議院議員の立候補、各句會の
 指導、市立高女での川柳講演、川
 柳サービス部の開設等々々々私自身
 も目の廻る忙しきだった。内輪話
 はまあこれにして、その後誰
 彼の消息を少しく發表して置く。

▼戸倉普天氏は少しからだをこ
 わされた加減もあるので日東枋産
 業の専務を辭され、相談役として
 週に一兩日の出社、あとは郷里の
 丹波で俄百姓の食糧増産をやつて
 ゐられる▼奥村丹路氏は社が戦災
 自宅は無事▼武部香林氏は事務所
 が戦禍、隣家まで焼けて来た自宅
 を假營業所として活躍されてゐる
 ▼水谷竹莊氏は自宅が戦災▼小川
 靜觀堂氏は南方からまだ復員され
 ない。消息杜絶▼水谷錦水氏(在
 滿)の消息は未だに杜絶したまゝ、
 ▼井村養浪氏は戦災で家を
 失ひ痛ましくも母堂を亡くされた
 引續き父君、令閨を病室にさらは
 れ、氏は入院中である。▲長崎柳
 秀博士夫妻は昨年の六月御影の自
 宅の據で戦災死された。昨秋、阪
 大川柳會主催でその追悼句會が修
 替され、席上、藥物學教室の岡川
 博士が、長崎柳秀博士最後の模
 様が語られ、笠原路生博士からは

遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

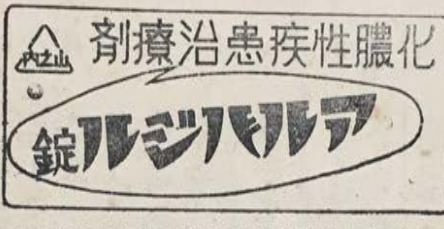
遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

遊學後の句風に就いて語つた。
 「金魚屋に舞妓袂を教へられ」の
 一軸が記念として私の手許に残つ
 てる▼寺井鏡々氏は有恒社の専
 務理事を退かれたが、昨年八月の
 戦災で邸宅を消失された。▼高橋

かほる氏は戦災で自宅も借家も焼失、その後まだ命はない。▼永田里十九里も店も宅も一時に戦災、一年餘経過した今日、漸く布施に建在であることが判つた。▼加川泉泡氏は今津の戦禍で焼夷弾のために傷つき四日目に亡くなったとのこと。▼水谷鮎美氏は勤務先の阪神電鐵が戦災、關根山彦博士は天王寺大道の自宅が戦災、橋本波夢造氏はビルマからまだ復員されない。應召前、母堂を喪はれ、留守宅濱寺・疎開中、父君を亡くされ、御遺族は徳島縣へ疎開されてゐる。▼山口夢詩朗氏は廿三年の外生活で築いた七千六百萬圓をすつかり置いて小倉へ引揚げてゐられる。▼岩崎柳路氏も巨財を打ち捨て張家口から北京へ出られたそうであるが、終戦後同氏に出した通信が九ヶ月振りに舞戻つた。令閨松代さんは終戦前内地へ歸省されてゐたので、最近數回來社された。▼濱玲之介氏は東京、大阪の兩社に自宅まで戦災、目下は旭區に再起を期されてゐる。▼西田紳樂氏は大阪府の囑託で食野草の指導に當られることとなつた。▼福田山雨樓氏は東京都で鐵道に復歸された。▼高澤一浪氏(ハライ)は古橋の祝でます。▼元氣旺盛で川柳に精通されてゐるとのこと。▼戸田孤鋒氏は自宅が戦災で焼出され目下は堺細上の百姓家に假寓。▼石井白面氏は大竹海兵衛から復員。▼中島生々庵博士は大阪の診療所を戦災で失はれ、堺市濱寺診療所の自宅を足跡療所を移された。▼古川風竹氏

(ハライ)は無事。▼古川慶芥氏(ハライ)は前山北海氏と相携へて一月々來社、私と微背談へ。▼イ川柳人が一同無事の情報もたらされた。▼廣瀬恒太氏は熊本放送局から日田市豆田郵便局長に轉じられた。▼岡田某人氏は神戸を去つて日田市役所稅務課へ勤務。▼藤



氏は香港から復員された。▼村松夢裡氏は日本樂器の神戸出張所へ起居され同社の大阪支店復興に力を盡されてゐる。▼石曾根民郎氏(松本)は舊居へ戻つて印刷所再開、「川柳」の再刊をされた。▼高野重雄氏は復員後、特殊紙器の監査役、目下小説の執筆中。▼前田五健氏(松山)は自宅戦災。▼蛭子省二氏朝鮮光州から山口縣へ引揚。▼谷脇素文氏は疎開先高知縣で永眠された。▼植山九天氏(上海)は大分縣に引揚、地方文化のためにつとめてゐる。▼高田抱逸氏は疎開先から大牟田市の舊居へ歸へられた。▼森東魚氏(北京)が昨秋北京で客死された。肝膽相照らし、みた同氏の長遣は小生の心を深く痛ましめた。▼北川春果氏(豊後縣)は復員後鐵道病院へ復歸された。▼西尾栗氏も復員された。▼濱田久米雄氏は母堂への孝養から岡山の鐵道局へ轉勤されたが、十九年の師走に母堂を亡くされた同情に堪えきれず、杉原大研子氏は勤務先自宅共に戦災、目下は吹田市花壇町に移つてゐられる。▼住田亂歌氏は戦災で声屋市へ。▼相元紋次氏は再度の戦災で西宮市へ。▼岸本水府氏(京都)は目下出版屋を始めるので忙しそうだ。成功を祈つてゐる。▼清水友帆氏(石川縣小松)が昨秋郷里で永眠された。▼中内翠芳氏戦災で深江に移られた。▼清水白柳氏は戦災で今川町へ移られた。▼夷一笑氏は奈良縣吉野郡大淀町下瀬新町へ。▼阿高萬氏の戦災で西宮市大谷町鐵道官舎へ。▼上田翠光氏は昨秋十一月復員された。▼八竹正柳氏はビルマからまだ復員されない。▼村上角堂氏は大阪市阿倍野區山坂西之町三丁目へ移られた。▼松浦帆船氏は戦災で郷里福井縣へ。▼宮田不二氏は戦災で北海道上川郡永山村區へ。▼伊吉戸町四丁目(移居)田淵あをや氏は大分縣へ。▼石原使君子氏は五月廿六日頭痛の典を擧げられた。▼川柳不折洞會員の熊本春景氏が昨年の春まだ寒い三月に夭折してから、父の春景氏があとをついで川柳家になられた。▼深井凡々氏の主宰してゐる、むつみ川柳社(奈良縣生駒郡平群)の六月二日の集りへ出席した。元遠陽や大連にゐた凡々氏は在外川柳人に就て人一倍案じとゐられる。温い同氏の心情を汲んで引揚者に手をさしのべるための協力を内池川柳人諸氏に特に私からも頼む。昨年、川柳不折洞會員の清水史路氏が亡くなられた。▼田中風葉氏が十八年中支で戦死された。その頃に

は雑誌も出てゐたのに發表させてくれなかつた。寫眞版まで作つて聞かへて。▼五月五日に青空の下の川柳會を計畫したが雨で嘔まれて集つた。▼五月廿五日に貝塚市の千石莊病院自治會文化部川柳會の指導に行つた。▼青木克容氏は三月に川柳雜誌社へ入社したが健康が優れぬので一ヶ月で退社、鬼を飼ひながら静養を續けることになつた。▼巽無一氏(岸和田市)は自由出勤の形で千石莊に入院されてゐる。▼千原庸司氏は千石莊の自治會の委員に再選された。▼小原重志氏は奈良縣生駒町へ居を移された。▼津田千舟氏は最近又々「病人の仕事欄の水をかへ」の句を寄せられた。▼橋本美奈子さん(練雨氏令閨)の句集「住宅街」が出た女性らしい句で充たされてゐる。點真珠の摩さである。▼本庄快哉氏(松江市)の句集と詩集の「風車」が出た。横綴版。▼吉川亞人氏の「亞人句集」その二が出た。小型横綴、以上何れも非賣品。▼川柳むつみ(四號)▼柳城(三號)▼川柳大阪(八四號)▼交通局會▼川柳きやり(五月號)▼川柳鳥ヶ辻集▼月刊川柳文化(六月號)▼川柳むらさき(二十八號)ヒカリ(第一號)。

B列5號 毎月一回一日發行
川柳雜誌 第一卷 第一號
 御注文はすべて前金 小爲替

一冊 金三十圓
 一ヶ月十二冊 (送料圓六錢) 金三十六圓

昭和廿一年七月廿五日印刷、
 昭和廿一年八月一日發行

大阪市吉野區西五丁目五番地
 發行所 川柳雜誌社
 電話 五五五
 行司 藤生 幸二 郎